

# 高知市における大規模建築物の色彩計画

## - 要旨 -

高知工科大学 社会システム工学科  
景観デザイン研究室  
1070518 田中 佑紀

### 1. はじめに

#### 1.1. 背景

現在の高知市では多くの大規模建築物が建設されており、さまざまな色彩が用いられている。その中には、彩度の高い色合いのものもあり、周辺環境との調和や統一などは必ずしも考慮されていない。また、高知の風土に適した色彩についても検討されていない。

このような状況を改善し、調和の取れた景観をつくり出すために、高知市における大規模建築物の色彩について、周辺環境と調和し、高知らしい色彩の提案が求められている。

#### 1.2. 色彩計画策定の目的

高知市の大規模建築物の色彩についての考え方を提案し、実現を目指す。それにより、高知市全域を長期的に美しく高知らしい景観とするともに、地域ごとに相応しい色彩を用いて、地域の特徴に配慮した景観をつくり出す。

#### 1.3. 作業内容

本計画では、高知市が対象としている大規模建築物におけるの色彩や景観的特徴について現況調査を行い、それに基づいて色彩計画の検討を進める。また高知市では、住宅地区や自然の豊かな地域などが混在しているため、いくつかのゾーンに分けて計画、提案を行う。本計画では港湾、自然、市街地、住宅地の4つのゾーンについて行う。(図15)。

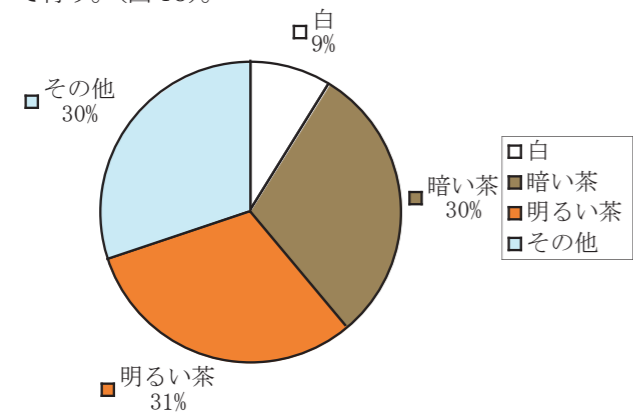


図1. 建築物の壁面に利用されている色相の割合

#### 2. 現地調査

高知市では平成10年から大規模建築物の形態、意匠などについて届出誘導を行っている。これまでに136件の集合住宅が届出を行っており、今回これらの集合住宅の色彩を現地調査した。

現地調査の結果、図1のように茶色系の色相が多く利用されていることが分かる。このように、茶色系の色相が多くある要因としては、穴吹工務店やジョー・コーポレーションといった企業が茶色系の色相を常に利用しているという点が挙げられる(図3-8)。

このことから、高知市の色彩については周辺環境への配慮や統一といった考えよりも、企業のイメージカラーとして全国一律で決まっていると考えられる。

また、その他の企業においても茶色系の色相や彩度の低い建築物が多く建設されている。これらの要因としては、茶色系や彩度の低い色相が与える「奥ゆかしい」「渋い」「伝統的な」などといったイメージや汚れが目立ちにくいことなどのメンテナンス面においても多く利用される要因だと考えられる(図9-14)。

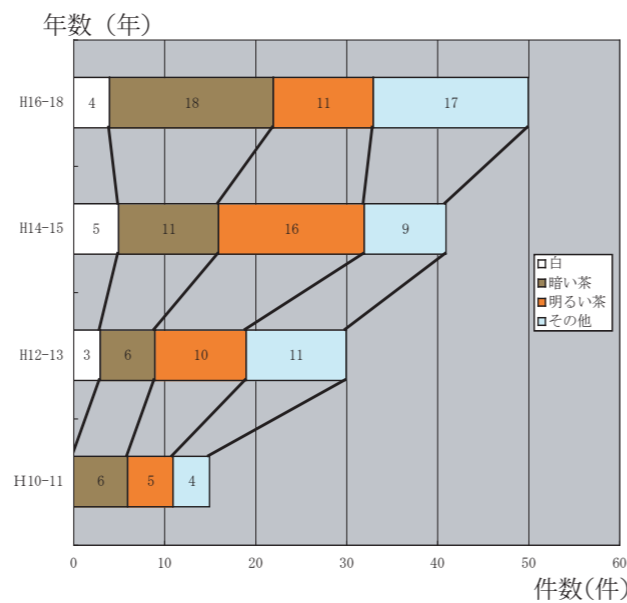


図2. 年別の利用されている色相の値



図3.4. 穴吹興産の共同住宅



図5.6. 穴吹工務店の共同住宅



図7.8. ジョー・コーポレーションの共同住宅



図9-14. その他の共同住宅

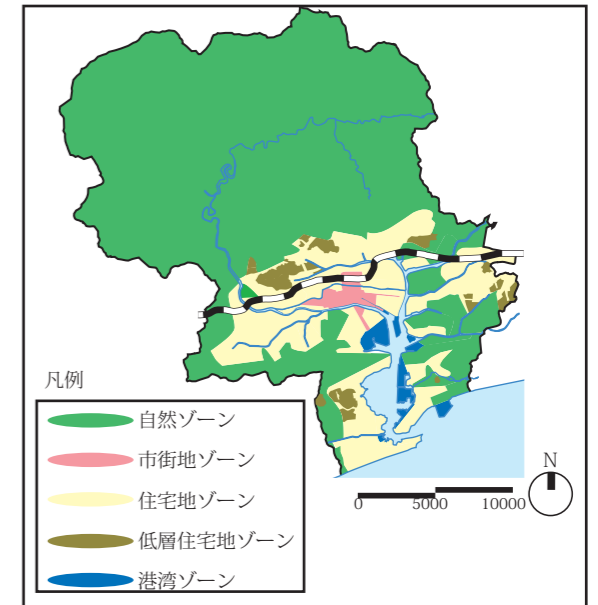


図15. 色彩計画範囲位置図

### 3. 色彩についての事例・一般論

ギリシャのように水辺に近い環境の色彩と言えば、真っ白な壁面に青いドアのようにクリアな色彩が用いられている。逆に、白川郷のような緑に囲まれた環境においては、木材そのもののグレイッシュな色彩がとても良く似合う。このように、海岸的な環境では白や青といったようなクリアな色が良く、それに対し内陸的な環境では黒や茶といったようなグレイッシュな色が良いとされている(図16-17)。

また、光の波長によっても色彩は変化し、日本アルプスを境にして、北は青や緑などの寒色系、南は赤や橙などの暖色系が美しく見える。このうえ、湿度の違いによっても色の見え方が変わり、太平洋側では澄んだ色、日本海側では渋い色がきれいに見える。緯度や気候の差異により同じ色でも違って見えることから色は太陽の光に操られていると言える(図18)。1)



図16. エーゲ海周辺



図17. 白川郷

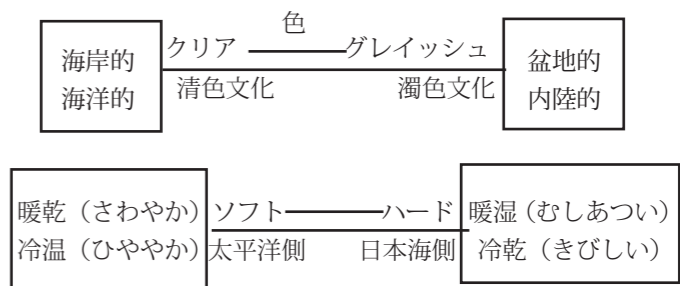


図18. 気候と色との関連

4. 仮説

以上の一般論や事例をもとに、高知市においてどのような色彩が相応しいか仮説を立てる。

高知市の気候や位置について考えると、太平洋側に位置し、日本アルプスよりも南側である。これらのことから、高知市全体としては暖色系で澄んだ色を用いることが良いと考えられる。

ただし、高知市は市街地や住宅地、海岸沿いの地域、山間地域などが混在しているため、これらをゾーン分類して検討する必要がある。ゾーン区分については現在検討中の高知市景観計画のゾーニングを用いる(図15)。

港湾ゾーンは海に近く海岸的な環境のため、白を基調としたクリアな色彩を用いて統一感を作り出す。

自然ゾーンは緑に囲まれた内陸的な環境のため、暖色系でグレイッシュな色を用いることが望ましいと考えられる。

市街地ゾーンは、論理的な仮説を立てることができなかったが、現況の高知市街地は全体に白いビルが多いので、白を用いることで統一感を作り出せると考えられる。

住宅地ゾーンは、現況で茶色系と無彩色が多くあるため、茶色系と無彩色を用いることで統一感を作り出す。

5. アンケート調査

仮説を検証するために、シミュレーションCGを作成し、アンケート調査を行った(図19.~22.)。配布数は200枚で回収数は125枚であり、高知県出身者は71人、県外出身者は54人という回答数であった。

アンケート結果により、市街地ゾーンと港湾ゾーンでは白色が半数近くを占めており、白を基調とすることが多くの人に受け入れられることが分かった。

また、自然ゾーンでは暗い茶色が47%と半数近くを占めており、暗い茶色を用いることが多くの人に受け入れられることが分かった。

住宅地ゾーンでは、白が34%、明るい茶色が41%という近い回答数となっており、今回のアンケートでは差が8人程度であるため、住宅地ゾーンでは白色と明るい茶色の2色を用いることが多くの人に受け入れられると考えられる(図23)。



図19. 市街地ゾーンのシミュレーション



図20. 住宅街ゾーンのシミュレーション



図21. 港湾ゾーンのシミュレーション

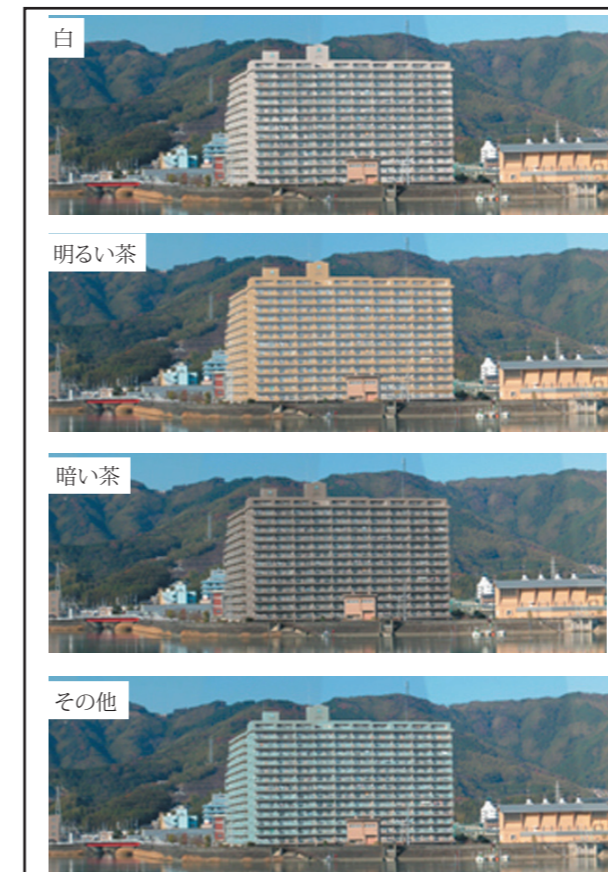


図22. 自然ゾーンのシミュレーション

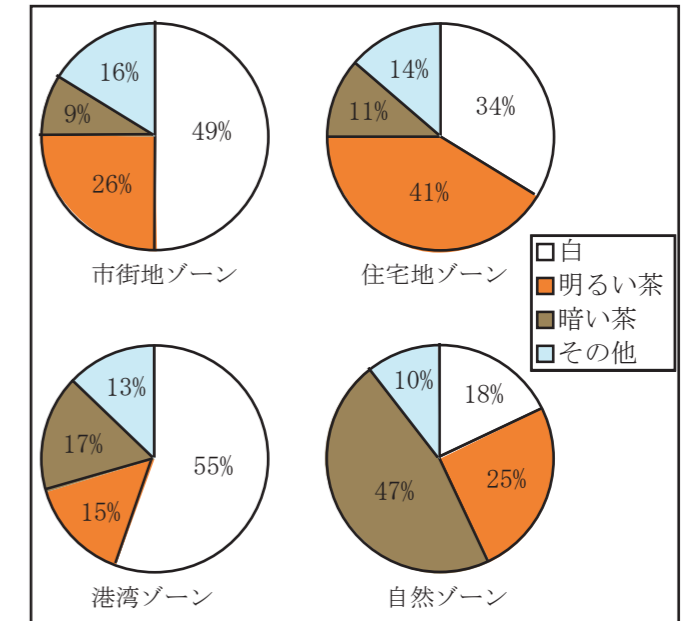


図23. アンケート結果

6. 結論

市街地ゾーンは、論理的な仮説を立てることができなかったが、アンケートでは白色が49%とほぼ半数を占めており、現況の状態が多くの人に受け入れられていると考えられる。

住宅地ゾーンは、論理的な仮説を立てることができなかったが、アンケートより白色と明るい茶色の2色を用いることが多くの人に受け入れられると考えられる。

自然ゾーンでは、内陸側の環境であるため暖色系でグレイッシュな色を用いることが望ましいと仮説を立てたが、アンケートでは暗い茶色が47%と半数近くを占めており、仮説が検証されたと言える。

港湾ゾーンでは、白を基調としたクリアな色を用いることが望ましいと仮説を立てたが、アンケートでは白色が55%と半数以上を占めており、仮説が検証されたと言える。

今後は景観計画における大規模建築物の誘導基準において、ゾーン別の色彩の誘導基準を定める際にこの成果を活用したいと考えている。また、市民だけでなく専門家などの意見を反映すべきなので都市美審議会において議論したいと考えている。

7. 参考文献

1) 「おもしろくて ためになる 色の雑学事典」  
岩本 知沙土 日本実業出版社